
この恋が叶うまで

神山 純

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

この恋が叶うまで

【Nコード】

N5050D

【作者名】

神山 純

【あらすじ】

主人公、神山純一を中心に繰り広げられる物語。それは甘く切ない恋。誰もが通ったことのある道のお話し。ぜひ童心に返ってご賞味あれ。

序章（前書き）

拙い文章で書きます。少しづつ連載していきます。ぜひ皆様の力を分けてください。

序章

少し高い海沿いの道を僕は走る。
潮の香りを含んだ風が心地よく
頬を撫でる。

あの時の風はもう少し暖かったかな？
昔を思い出し僕は少し微笑んだ。
そして同時に暖かな哀愁を漂わせながら
道に行く。

長い長い一本道だ。

2003年 7月

今年も暑い夏がやって来た
近ごろ温暖化やらなんやらで
お偉いさんが騒いでるが、
そのせいかな？

この時の僕は12歳
中学校2年生の自分が初めて恋をした夏、
甘くて切ない恋の思い出だ。

僕は当時テニス部に入っていた。
中1の頃から始めたばかりだったが、
オレはこのスポーツが大好きだ。
だから特別にうまくは無いが、
部活だけは真面目にやっていた。

部活だけは？

と言う事は、もちろん日常生活は
乱れまくりだ。

そんな学校生活だがとりあえず
楽しくやっている。

「おはよ」

夏休みまであと2週間となった今朝、
爽やかな挨拶とともに
この教室に入って来たのは

七瀬 三春

彼女は去年、東京から
引っ越して来たばかりの

新米の福島県人だ

・・・かくゆうオレも

2年前に神奈川から

越して来たばかりなのだが、

「あれっ？2人の邪魔しちゃいました？」

と、悪戯な笑みを浮かべながら

唐突に三春は言った。

こいつは時々ハツとするような事を言う。

普段は、ホントにこいつが東京に？

と疑いたくなる程ボケててお人好しなのに

実は鋭くて、自分の心なんか

見透かされてる

って思ってしまう。

三春の一言に本気で否定するのは、

小余綾^{こよろぎ} 佳穂^{かほ}

同じテニス部に入っていて
練習もよく一緒にやるので
女子の中では一番話しやすいし
仲も良いと思ってる。
まあ、いい女友達ってとこだ。

「あはは、ウソですって！
そんなに否定したら
純がかわいそうですよ」

「あう・・・」

2人は本人の事なんて気にもかけず
話を続ける。

しかし、あまりにも勝手な会話をするので
そろそろ終らせないと
思い立ち上がって僕は言った、

「お前らいい加減にしるよな？
だいたい本人お構いなしって
どういう事なんだ？」

人権無視かよ」

と、僕が言ってみせると2人は同時に
「あつ、ごめん」

といった。しかもシンクロして。
一瞬の沈黙のあと不思議と
笑いが込み上げて来た。

「お前ら朝から楽しそうじゃんか、
オレだけのけ者か？」
と、そう言って3人だけだったはずの

教室に突如現れたのは

茅原 標 かやはら ひょう

こいつは初対面のオレにいきなり話しかけて来た奴だ。

要は福島での友人第1号。

普段はふざけたような奴だがここぞという時に本領を発揮する
凄い奴。

1年の時から生徒会をやっていたり
テニス部次期キャプテンと言われていたり
オレなんかには勿体ない友達と言えよう。
そんな標がオレにだけは
いろいろ相談してくれる。
それが密かな自慢だったりする。

そして今、みんなにいじられているのが
オレ、

神山 純一

だ。この4人は仲が良く
気付くといつも一緒にいる。
オレはそんな空間が大好きだ。
オレだけじゃない。
みんな好きだからこそ
こんな朝早く、
他の誰かが来る前に
学校に来ている。

朝の学活が始まるまで

あと1時間もあるっていうのに。

こうして今日も1日が始まるんだ。

聞き慣れたチャイムが鳴った。

その音と共に教室に転がり込んで来たのは

赤坂 シンジ

そういえば、こいつとは

去年から同じクラスだったな。

シンジは去年、好きな人がいると
それまで、あまり話した事もなかった
オレのところに相談へ来た。

まあ、オレのおかげで

2人はくつついたんだけどな。

と、そんなことを考えてると

シンジより少し遅れて

足音が聞こえて来た。

パタパタパタ

「すみません、道が混んでてっ」

入って来るなりそう言ったのは、

佐橋 恵

こいつがシンジの彼女。

去年は別のクラスだったから

くつつけるのは大変だったなあ。

「お前、家近いじゃん！

ってか道は混まねえだろ」

「えへへ、そうだった？」

と、オレが妄想にふけってる最中
シンジと恵の会話が聞こえた。

（早く席につけよ・・・）

オレが心の中でそう思ってる
と案の定、先生が来てしまった。
入って来た先生は後ろの

2人を見るなり

「なんだ、また夫婦漫才か？」

なんて言うもんだから

めんどくさい事になりそうだ。

それを聞いたクラスの皆が

2人をはやし立てる。

（やめてくれ、後で

オレにシワよせがくるから）

大体なんで付き合ってる事を

隠したりするんだ。

「こんなやつ何でもないよ！」

耳をつんざくような恵の声が

虚を突いて教室中に響き渡った。

ほらね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5050d/>

この恋が叶うまで

2010年10月28日04時04分発行